

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学部 名前：富岡 洵 作成日：2024年12月19日

1. 教育の責任

日本のグローバル化に対応できる看護師を養成するために、地域・在宅で療養する多様な人々がもつ背景や健康課題を理解し、適切な医療や看護が提供できるよう支援や看護ができる看護師を養成している。

2. 教育の理念

国際看護学部の教育理念である多様性への理解と受容のもと、自身の価値観ではなく、対象者にとっての価値観や重要なものを理解する姿勢ができるように関わる。また根拠に基づき、対象者独自の看護ができるような国際力、学士力、実践力を身に着けることができるよう学習支援する。

3. 教育の方法

- ・講義では、臨地での事例紹介、社会の動向、在宅医療における課題を病院での医療と比較しながら提示し、視覚教材を用いて学生が在宅医療をイメージしながら、在宅医療での課題を検討して、在宅医療での看護を展開できるように支援している。
- ・演習では、講義で習った在宅看護での技術を看護師役、患者役、家族役、観察役で体験し、それぞれの立場で感じたことをフィードバックして、それぞれの生活の場での医療を行う際の留意点に気づき、今までの実習の経験を活かしながら知識と経験の積み上げを行なえるように関わった。
- ・臨地実習では、講義、演習やで学んだ知識と今までの実習で得た看護展開の方法を結び付け、在宅の療養者と家族の背景やその人らしさを尊重した看護とは何かとは考えながら看護を展開できるように指導した。

4. 教育の成果

生活の場での医療・看護を理解して、病院での看護ではなく、療養者の生活の場で看護を行う上での環境での接遇の必要性、生活の場を大切にすること、その人らしさを考えること、尊重する上での看護について学生同士で意見交換を行い、発表することができていた。

5. 改善への努力と今後の目標

アクティブラーニングを取り入れていきたい。担当する科目では講義のほかに、療養者の状態からどこを観察するかグループワークと国家試験の問題を解く時間を設けたが、今後は学生同士で考える事例や検討した内容を発表する時間を設けて学生同士で考えてもらう時間を設けて議論や考えを活発に言い、学びを発展させられる環境づくりを行っていきたい。

【添付資料】